

## 高松学習館運営協議会（令和2年12月）会議録概要

開催日時 令和2年12月21日（月曜日）午後7時00分～午後8時15分

開催場所 高松学習館 第一教室

出席者 [委員] 神山敬章（明星大学常勤教授）

小林理哉（社会福祉協議会）

梅田茂之（自治会連合会栄町支部）

有本悟（高松児童館）

橋本登（立川市市民交流大学推進委員会）

小倉亮一（立川市市民交流大学推進委員会）

難波敦子（学習館利用団体）

結城まり子（学習館利用団体）

委任状提出 栗原政子（学習館利用団体）

欠席 2名

[事務局] 石井孝（高松学習館係長）、富田瑞代（高松学習館市民嘱託）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

### 議事

1. 会長あいさつ 電車遅延で会長が遅刻のため、副会長が報告事項と協議事項途中で司会進行をした。

### 2. 報告事項

#### ○事務局より

- ・11/23 事務室窓口の前に設置の消毒液の盗難があった。  
委員より防犯カメラの設置、警察への届けをすることで犯罪を防止することにつながる、ダミーでも設置すべきという意見があった。現状は防犯カメラ設置まで至っていない。
- ・市民から指摘いただいた玄関スロープのでこぼこを12/14に修理した。
- ・1/13 寿教室「新年のつどい」を立川競輪場・集合棟3階大広間にて開催する。  
感染症対策を徹底し、新春落語を楽しむ会を実施する。水分補給以外の飲食はせず、お弁当やお菓子は持帰りとする。

#### ○委員より

- ・児童館：感染症対策のため人数制限をしてクリスマスイベントを実施した。子ども達が楽しく過ごしたいという思いが伝わってきた。
- ・市民リーダー交流会：1/14(木)午後1時30分～アトム・健康サロンにてリーダーフェア来場者が多かった。市民がイベント参加を求めていると感じた。

### 3. 協議事項

(1) 前回議事録（案）について 承認された。

#### (2) 地域活性化事業

- ・きらり・たちかわ冬号を配布し、掲載されている今後の事業について確認した。  
3/2・3/16「アンガーマネジメントを知ろう」、3/7「多摩地区から考える東京」、  
3/19「新田砂川を訪ねて～ふりかえり」  
1/17「新春たかまつ落語会」、2/27「誰でもコンサート」
- ・誰でもコンサートちらし(案)を配布した。幸学習館と共催で会場はさかえ会館。

当日は梅田会長、難波副会長、小林委員が参加可。幸学習館運営協議会委員と協力しての運営となる。

- ・新春たかまつ落語会：1/17(日)午後1時30分開演  
当日スタッフとして、梅田会長(司会)、結城委員(受付)、栗原委員(受付)
- ・「手ぬいでチクチク手芸教室」は障害者施設と連携で実施しており好評のため来年度も地域活性化事業として継続することになった。

### (3)文化祭

- ・作品展と公開教室は例年どおりの日程で開催の予定で進めていくことになった。4/8準備会は広い会場(視聴覚室)で実施する。難波副会長が出席予定。
- ・演奏会については、出演予定団体のアンケート結果と現在の感染拡大状況を考慮し、例年の6月開催は厳しい。出演予定団体との4/9調整会議で開催時期や実施の形について意見を聞くことになった。梅田会長が出席予定。感染状況によってはリモートを活用するなど工夫しながら実施に向けていくことになった。利用団体の日頃の活動の成果の発表の場として、安心安全に実施できるよう取り組んでいく方向。小林委員から社会福祉協議会ボランティアで録画や編集に長けていて協力できる高校生がいると情報があった。団体との調整会議までにいろいろな可能性を考えながらたたき台(案)を検討していく方がいいという意見があった。リモート実施の方法も含め今後検討していくことになった。

### (4)代表者会議：1/27(水)午後8時30分～ 市役所

- ・事務局より会議次第(案)を配布した。担当は高松学習館で、梅田会長が司会進行役となる。研修の具体的な内容の提案、交流会についての意見を伺うことになる。生涯学習推進計画具体的施策対比表作成について各館に働きかけをし、地運協事業が個別計画のどれに該当しているか、より意識してもらうことにつながる。代表者会議で聞いてほしいことや会議内容について協議していただきたい。
- ・幸学習館はwithコロナで前向きに事業を実施、西砂学習館は地域との深い連携ができてきているなど、各学習館運営協議会の様子が異なっている。良い面は取り入れていきたい。他の学習館の動きは交流会や研修会で発表しているが、詳細まではわからない。
- ・地域の学校コーディネーターとの連携について質問があった。  
11月に市役所で学校コーディネーターと学習館係長でワークショップ形式による交流があった。動きとしては、西砂学習館は七中校区担当で学社一体に向けて動き始めているところ。各学習館の担当の学校の数や職員体制が課題になっている。学習館によって進捗状況が異なるので調整が必要。これから少しずつ進んでいくと思われる。
- ・生涯学習推進審議会で、生涯学習推進センターでは地域学校協働本部事業の実施について話があった。幸と西砂で始めていて、それを徐々に他の学習館に展開していこうという考えがある。立川独自の取り組みが進んでいないという話だった。徐々に広がっていくということになっているが、コロナの影響もあり、時期や取り組み方、進め方が難しいというのが実状。
- ・文科省で地域学校協働本部事業を実施すると謳っており、地域により温度差はあるが、動いている。教育委員会が主導して学校教育と社会教育の連携を進め

ている。立川はどこが主導してやっているのか。学校支援ボランティアはいるが、学社連携、学社一体ということアイデアだけでなく実際にやるのであれば、社会教育の一つの地域コミュニティスクール（子どもの居場所）などについて都市部はまだ調整できてないと思う。行政主導で土台を作ってもらって地域の学校や組織が乗っかっていく。市全体のグランドデザインを誰が作るのか、はっきりとしたビジョンがないと実現しない。行政サイドで幹事会的なもので進めていかないといろいろな問題が出てくる。一つの学習館では実現できない。協働本部事業自体は進んでいて、東京都から各市町村に降りてきて立川市は独自にどのように取り組んでいるのか見えない。点と点のままで線になっていない気がする。丸投げでやってくださいではなく、断ち切れにならないよう、きちんとした計画を練っていくことが大切。学習館6館と学校が連携していく時にどこが事務局で窓口となりお願いしていくのかが見えない。生涯学習推進センターにその窓口があるのか、整理しておいた方がいいと思う。代表者会議は重要だが、社会教育計画を立案していくことになるのなら、きちんと年間計画、短年度計画を立ててなければ、単に情報交換で終わってしまうのではないか。せっかくいいことを実施していて、組織の上であげていかないと残念だと思う。教育委員会、教育長、センター長がどのように考えているか。単に一年一年を消化していきただけになる。社会教育はつながっていかないと意味がない。学習館で温度差があっても、立川市全体の中でどういう青写真を持っているか。具体的な構想を練っておく必要があると思う。

- ・立川市の生涯学習の中心を担っている市民リーダー会、市民推進委員会、地運協のそれぞれの代表が初めて集まる会議となる。コロナ感染症の拡大が懸念されるが、リモート実施など工夫していけたらと思う。

#### 4. その他

- ・次回会議日程について 令和3年1月18日(月)午後7時～8時30分  
※令和3年2月以降の会議開催日程について確認した。

#### 5. 地域課題共有(地運協運営状況) 時間の関係で省略

以上